

6.3 教育方法のあり方

進捗状況報告

キャンパス自立支援課KSCコーディネーター室が中心となって、ここ数年来、総合政策学部で取り組んできた聴覚障害学生のための授業保障サービスであるノートテイクの実践記録と方法をDVDにまとめた。また大教室のAV機器の見直し、さらに2008年度には、大中教室のプロジェクターやスクリーンの新規入れ替えを行った。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

遠隔授業は実施にかかるコストに見合う教育効果が得られないと思われる。

学内第三者評価

2007年度で指摘された遠隔授業については、その方針（「今後とも続けて大学に要望していく」）とその実現性についての記述が望まれる。また、障がい者支援については、きわめて優れた取組であることが認められるが、特定の教員に負担がかかりすぎる可能性についての自己点検評価が求められる。個人的取組でなく組織的取組であることは認めるものの、この支援体制の継続的展開を可能にするためにも、さらなる組織的取組がなされることが期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
聴覚障がいのある学生への配慮が持続的になされていることは評価できる。
遠隔授業の行える教室の拡充と授業の実践については言及されていないが、今後の努力が望まれる。